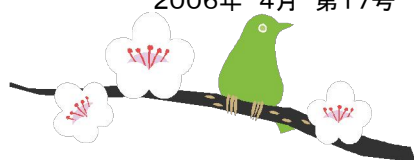


図書館だより

名古屋文理大学図書情報センター
2006年 4月 第17号



学生の宝物を探す

理事長・学長
瀧川嘉彦



さて最後に、新年度早々ではありますが、この紙面を借りて学長から皆さんに宿題を出したいと思います。それは「皆さんの宝物を探す」という宿題です。少しヒントを記しておきたいと思います。

宝物とは、形のあるものとそうでないものがあります。大学から得られる形のある宝物の代表は成績です。卒業時に最も優秀な学生1名が手にすることのできる「学長賞」もそのひとつです。副賞は「学問」を意味する「万年筆」です。若い皆さんから溢れ出るアイデアは最近の高性能のPCによっても簡単に形にできるようになりました。しかしそのアイデアが纏まらないとき、誰もが初めに使うのが筆記用具です。古臭く使いにくいと思われがちな万年筆は、逆に使いやすいボールペンよりも皆さんの知恵をまとめるのに役立ちます。アメリカのある大学では、教授が優秀な賞を受けたとき、自分の愛用する万年筆をその教授に贈るという習慣があるそうです。教授のデスクには、使い古しの万年筆が山となりこぼれそうになるのですが、その教授はその山が高いほど、名誉を感じると言います。「万年筆」には「学長賞」を得た人に対する学長からの「敬意」が込められているのです。

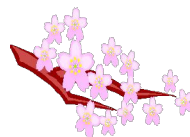
次に形の無い宝物の代表は「人」です。学生同士の「友情や信頼」を築くことができれば、それは目には見えないけれど、一生の宝になります。また「友情や信頼」は皆さんと教職員との間に築くこともできます。私は20年以上も前に卒業した大学の教授と今でも交流があり、その恩師によって私の人生は大きく変化し、高められてきました。本学にも素晴らしい教職員がたくさんいます。皆さんにも「生涯の恩師」という宝を得るチャンスがあるのです。

そして最後のヒントは「学生便覧」に書きました(2年次生以降の皆さんは私のHPを見てください)。私が尊敬するハーバード大学ハワード・ガードナー教授の理論です。人間の知能は一つではない。示された8つの知能の中のどれでもいいですから、皆さんに合った宝物を手に入れてください。

さて宿題は難問かもしれません。しかし私は、せっかく大学生になったのだから、名前だけの大学生に甘んじず、恐れずアクティブ(行動的)にこの宿題(宝物探し)にチャレンジしてほしいと思います。皆さんの成功を祈ります。

目次

学生の宝物を探す	1
学ぶ人	2
卒業研究紹介	3
本の紹介	4
図書情報センターから	6



桜の花びらが温かな風に揺られ舞い降りる良い季節になりました。フレッシュマン(1年次生)から4年次生までの皆さんにとって、四月は新しい始まりのときです。これまで予定通りの成功を収めた人は本年度さらなる高みをめざし、想定外の失敗を経験した人はその原因を深く見つめて次の成功へと生かしてください。今年度も元気良く、そして澁刺(はつらつ)と一年を送ることにしましょう。

さてこの平成18年度(2006年)は学園にとって特に記念すべき年になります。本学園は初め食糧科学研究所という研究機関でしたが、初代の理事長はその研究機関を基礎に、昭和31年(1956年)に名古屋市西区に栄養士の専門学校を始めました。それから半世紀が経ち、この平成18年11月8日には創立50周年を迎えます。

私たち教職員はともかく、学生の皆さんが学園の歴史を認識することは少ないのだと思うのですが、いま私たちが過ごすこの校舎も、そして教室や実験・実習室も、使う机や椅子、図書館の本やVTR、そしてコンピュータも、すべては先輩たちが残した私たちの財産であり、1年や2年の準備でこれだけの施設設備、教育や研究の資産、そして学園生活の楽しみを得ることは出来ないのです。



5月病を吹き飛ばすために毎年行われる体育祭(是非賞品を勝ち取ってください)、夏に行われる野外体育(今年はラフティングやハンググライダーがあるのでしょうか?)、秋に行われる稲友祭(とうゆうさい)や短大部・専門学校の

名栄祭(めいえいさい)、冬に行われるスキー、スノーボード講習、そしてカナダ、オーストラリア、中国(年度によって異なります)を訪れる海外研修と盛りだくさんなイベントもこれまでの蓄積による学生の皆さんの楽しみの一つです。また本年はこれらに加え創立50周年のイベントが行われる予定です。私が楽しみにしているのは、新しい白川ホールでの女性だけのアカペラグループ「アンサンブル・プラネタ」の清らかな歌声です。きっと日ごろの疲れを癒してくれる素晴らしいイベントになる予感がします。学生の皆さんも自治会、実行委員会、サークル協議会等の「学園行事」に参加して、切符を手にしてほしいと思います。

★ 学ぶ人 —第2回— ★

このコーナーでは、様々な方面に向け頑張っている方々を、学内で見つけ出し紹介しております。今回は、資格取得に向け春休み中にも熱心に活動しておられるサークル「ライト兄弟」の勉強会にお邪魔して、お話をうかがいました。

ライト兄弟（資格取得同好会）

僕たちのサークル「ライト兄弟」は資格取得を目的とし、そのための勉強を通じてコンピュータについて詳しく知り、授業や就職活動などに生かしていくことを目的として作られたサークルです。目指す資格は初級システムアドミニストレータ、基本情報処理技術者などです。この試験は春、秋の年2回実施で今は春試験に向けて勉強中です！

主な活動日は火曜日と木曜日、S102 研究室で活動しています。木曜日には資格取得に向けての勉強、火曜日には時事問題やホームページの作り方など、試験のための勉強ではなく日常で生かせるテーマで話し合ったりすることもあります。サークルのメンバー全員で意見を出し合い、とても盛り上がって楽しいです！

一人ではなかなか進まない勉強も、集まってやれば楽しく効率よく身につけることができます。コンピュータについて詳しくなりたい！楽しく勉強したい！という人は一度ライト兄弟を覗いてみてください～！

代 表：丸田洋輔（情報メディア学部2年）

連絡先：1305011@nagoya-bunri.ac.jp

顧問教員：長谷川 聡（情報メディア学部教員）

連絡先：hasegawa@nagoya-bunri.ac.jp



★ 卒業研究紹介 ★



去る3月13日、本年度の卒業研究の中から卒業研究学長賞として推薦を受けた13の研究に対して、研究者の表彰と賞品の授与式が行われました。全ての研究を紹介したいところですが、紙面の都合上、受賞者13名中、3名の研究について紹介し、指導教員からのコメントを掲載いたします。

研究テーマ：「コンピュータ音楽の制作(曲名:オクノフィリア)」

研究者：情報文化学科 学籍番号 1102004 石川 竜也

指導教員(吉田 友敬 助教授)からのコメント：

DAW ソフトウェアを用いて、オリジナル楽曲の制作を行いまいしたが、石川君は、コンピュータを使った作曲・アレンジは初めてでした。自らギターを演奏できるので、その長所も生かしながら、ソフトウェアの特性を発揮すべく大変に努力しました。単に音を入力して設定するのみならず、その楽器らしい音が演奏されるよう各種の作り込みに尽力しました。

制作された作品は、明確なコンセプトを持ったもので、その構造的明快さと音との融合・調和は、特筆に値するものと思われます。

また、卒業研究に取り組むに当たっては、音楽的知識が豊富であることから、終始ほかのメンバーをリードしてサポートしていました。

研究テーマ：「F1 世界選手権における『JAPAN POWER』と『F1 マネー』についての考察」

研究者：社会情報学科 学籍番号 1299014 菊池 大

指導教員(須藤 裕之 助教授)からのコメント：

当該学生の論文は、大きく二つのパートからなっていて、前半は、モータースポーツの最高峰であるF1(フォミュラー・グランプリ)と提携企業・産業との資金関係について、後半は、本田技研工業(以下、ホンダ)のF1への参入と退出、そして復帰にまつわる企業の意志決定とその結果についてやや詳細かつ時系列的にまとめたものとなっている。特に、前半のスポンサー問題については、たばこ産業に対する広告規制といった問題に焦点を当て、規制強化に走る欧州社会と主要なスポンサーマネー獲得のための苦肉の策としてのロゴ無しボディカラーリングといったエピソードなどに触られている。

後半のホンダのF1における企業行動については、主として、同社のマシン技術とその戦績(実績)の浮沈について、エンジン技術やその安定性といった技術的問題と営利企業としての思惑と現場との行き違いなどについて、具体的に論じられており、前半部と合わせて現代モータースポーツとしてのF1が抱える資金、技術問題が大変ユニークな視点から、まとめられている。プロ野球問題をはじめスポーツとスポンサー(企業)の関係が取りざたされている昨今、大変興味深い研究テーマである。

研究テーマ：「通信業界における携帯電話の進化と個人への影響」

研究者：社会情報学科 学籍番号 1202040 早川雅規

指導教員(吉田 洋 助教授)からのコメント：

筆者は通信の自由化の観点から携帯電話に関心を持ち、急速な携帯電話の進化とそれが個人に与える影響について関心を抱いていた。様々な考察の結果、筆者は携帯電話が引き起こすいくつかの事件に着目した。携帯に夢中になって電車にはねられた事件、携帯電話が乗車客のペースメーカーに影響を与えた事件、携帯電話によって自閉症になった事件などを取り上げ、通信業界をリードする携帯電話企業の対応のまずさを指摘している。多様で高機能の携帯電話が発売されている一方で、こうした携帯電話により引き起こされる個人の影響に企業がどのように対応しているか企業倫理の観点から指摘したユニークな論文であり、卒研奨励賞にふさわしい。

★本の紹介★

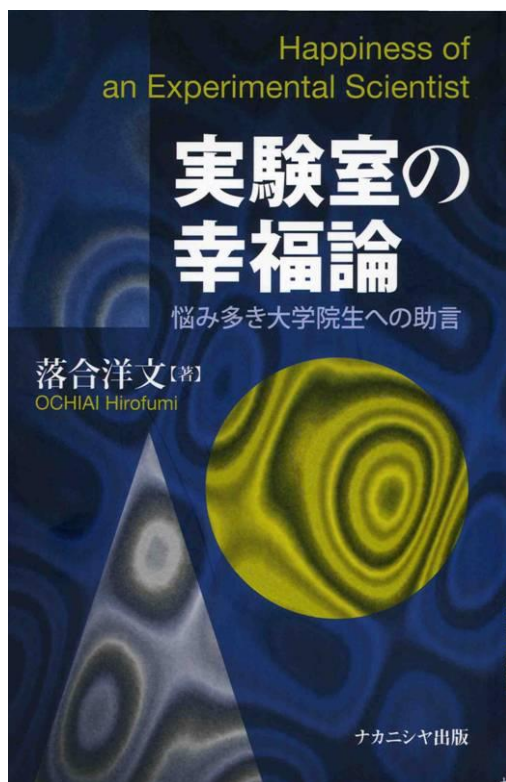


『実験室の幸福論 悩み多き大学院生への助言』

落合洋文 著

ナカニシヤ出版 2005 年 (ISBN4-88848-995-5)

紹介者：奥村純市 図書情報センター長



著者は本学のキャリア支援センター長の落合洋文教授である。先生の履歴である京都大学および大学院で合成化学を勉強して工学博士の学位を得てから、民間会社の研究所に就職し、更に改めて名古屋大学大学院で修士（学術）の学位を得たということから分かるように、学問をすることに魅了されている先生の書いた「学問の面白さ」が書かれている。その学問をする面白さを大学院の A 子さんとの対話を通じて書かれている。

本の構成は、六話から成っており、『先が見えないのが研究です』、『研究は「おもしろい」が基本』、『科学者の心と技の鍛え方』、『どんなひとが科学者に向いているか』、『プロフェッショナルへの道のり』、『背伸びしすぎず楽しく生きて』です。この構成、あるいはサブタイトル「悩み多き大学院生への助言」より分かるように、大学院で研究に悩んでいる人、将来について悩んでいる人が読むと、悩んでいたことが本に書いてあることで勇気づけられるのではないだろうか。

『本物の学者は「学を楽しむ」』、『身の丈サイズが一番』、『一等賞以外は無意味か』、『混沌のなかに創造の芽がある』、『学生時代に受けた教育の影響は一切消えない』などのサブタイトルの中に書か

れている A 子さんと先生の話は、大学院生である若い学徒の悩みについて先生はこれまでどのように考え解決してきたかという、先生の考える「実験室の幸福論」が書かれている。

本書を読んでいると「サリドマイド」はどのような物質であったのか、「バイアグラ」はどのような視点から開発されたのか、知らず知らずのうちに物知りになるのも読んで楽しい。

先生に伺った話では、これまでの著述の多くが各大学の入試問題として採用されてきたということである。本書も大学入試問題の素材として使える箇所が幾つかあると感じた。

原稿
募集

書籍・人物紹介

『図書館だより』では、読者の皆様からの原稿を随時募集しています。1 ページ全体に掲載をご希望の方は 1000～1300 字、半ページに掲載をご希望の方は 400～500 字が大体の目安となります。内容の前部分に、
①名前 ②所属学科 ③学生の方は学籍番号
④本の標題 ⑤著者名 ⑥出版社名 ⑦出版年
を明記し、文書を保存されたフロッピーまたは印刷された用紙を、図書館カウンター（内線：362）までお持ちください。採用された方には粗品を差し上げます。たくさんのご応募をお待ちしています。

エッセイなど

原稿
募集



『武道空手への招待』

糸東流空手道宗家 摩文仁賢栄 著 横山雅彦編

三交社 2001年

紹介者：社会情報学科 1204019 藤村考三



空手をはじめてから今年でちょうど 40 年になる。始めたのは 15 歳のときだった。動機は、心身の練磨、と、言いたいところだが、そんなカッコイイものではなかった。ただケンカに強くなりたかっただけだ。3 歳のとき肺炎になって生死をさまよい、医者から見離された。「この子が世の中で必要とされているかどうかだけです。」と、勝手なことを言われながらも三途の川を渡らずにすんだ。小学校時代は体が弱く、近所の悪ガキからいじめられっぱなしだった。中学になって柔道と剣道をやった。もちろん不純な動機だ。中学 3 年のとき他校の体のデカイ番長とケンカをしてこてんぱんにやっつけられた。相手はケンカ慣れしているのでパンチをだしてもなかなか当たらない、今までの自信がこのとき打ちひしがれた、「柔道や剣道ではだめだ、あとは空手しかない」と、不純な動機で空手を始めてから早いもので、40 年の歳月がたってしまった。ケンカや兵法は、勝つためにはルールも卑怯もない。道がつくものは、宇宙万物との調和を願う、心法なのだ。・剣道や柔道、空手道は、自然界の中で生きていくための心の持ち方を説いたものである。目的と手段の問題である、技法が目的か心法が目的かによって地獄へ行くか、極楽へ行くかほど人格に差が出るのだが、若いうちは地獄を味わうのもいいが、極楽まで繋げなければ意味がない。

日本は今、いろいろな面で壁にぶつかり、危機的状況との声さえあるが、中でも青少年問題は深刻で、教育のあり方を抜本的に改めるべきときにきている。知的教育一辺倒で受験勉強ばかり重点を置き、身体其自然な発達をおさえがちな現在の教育体系のもとでは、こどもはわからないことは突っ込まずに捨ててしまう癖がついてしまう。マニュアルにないことが起きたり、見通しがつかなくなるとどう対応していいかわらなくなり、すぐにキレたりする。学校の先生もまたしかり、教育とは、武道とは、が今ほど問い直されているときはあるまい。私の紹介する摩文仁賢栄先生の武道空手への招待は、まことに時を得たものといえる。内容は糸東流という武道空手の成り立ちと発展の経緯を明細かつ系統たてて述べた（第 1 部）と、戦う武道とは何か、その理念と精神はいかなるものかについて、たんに空手のみならず、剣道、合気道なども含めて広く、深く紹介、解説した（第 2 部）とで構成されている。武道の究極の目的が実際の日常生活で生かされたときはじめて（兵法）は（平法）に転換し（武）は（文）に転換する。スポーツや武道を志している人、また、興味のある人にはお勧めの書籍である。



図書情報センターから

雑誌ラインナップの刷新について

2006年1月から、メディア系の雑誌を中心に図書館雑誌コーナーの購読紙の入れ替えが行われました。最新の技術に触れ、魅力あるコンテンツの制作に役立ててください。

1. SOUND DESIGNER
2. キーボード・マガジン
3. Web Designing
4. 月刊 INTERNETMAGAZINE
5. 季刊 みんなのブログ Impress mook



第2回デジタルコンテンツコンペ予告

昨年に引き続き、本年度も本学学生を対象にデジタルコンテンツコンペを開催いたします。

詳細は5月頃、ポスター・Web 等にて告知します。今回は Flash 部門に加え、新たな部門の作品募集も検討されております。ご期待ください。

図書館の利用について

・ OPAC を利用して、図書館のパソコンで蔵書検索が出来ます。OPAC は館外の情報実習室のパソコンからも利用できます。大学 Web ページの付属図書館のリンクよりご利用ください。

・ 図書館を利用の際には、マナーに注意して下さい。館内での飲食は禁止です。飲食物の持ち込みも控えてください。また、ケータイの利用等、他の利用者の妨げとなるような行為は慎み、静粛を保つよう心がけて下さい。